

日本の大学ラクロスの報道過程 Newspaper coverage of university lacrosse in Japan

1k10c266-0 恒川 健太郎
主査 リー・トンプソン 先生 副査 寒川 恒夫 先生

【目的】

私は大学からラクロスという競技を始め、男子ラクロス部に入部した。入部してから4年間ラクロスというスポーツの良い面や悪い面を色々と目の当たりにしてきた。それと同時に周りの友人や親族のラクロスに対する認知や理解度の低さも思い知った。

本研究は日本でラクロスという競技が新聞報道の中でどのように取り上げられ、報道されてきたのかの変遷を探ることで競技自体の普及率や読者の需要の推移、更に日本でのラクロス界の歴史との関連性を分析し考察するものである。個人の力ではマイナースポーツをメジャースポーツにまで引き上げることは出来ないが、この研究を行うことで少しでもその足掛かりになれば良いと思う。

【方法】

ラクロス自体の種目の歴史を「日本ラクロス協会公式サイト『.Relax』 Japan Lacrosse Association」

(<http://www.lacrosse.gr.jp/>) を参考にして調べる。大学ラクロスに関する新聞の記事数の多い年とラクロス界の歴史に何らかの関連性の有無を証明するために行う。朝日新聞、毎日新聞、読売新聞、日本経済新聞の四社の新聞データベースを用いて該当する記事内容を検索する。

上記の方法で検索してヒットした記事全てに目を通し、コーディングシートを用いて記事内容を分類する。ここでのコーディングシートに用いるコードは8項目に分類する。「新聞名」、「日付」、「記事の種類」、「見出し」、「記事内容」、「競技」、「試合結果」、「その他」とした。「記事の種類」に関しては①. 記事のみ②. 写真のみ③. 両方記載の三つに分類した。「記事内容」に関しては①. 競技に関する内容②. 試合結果に関する内容③. その他の三つに分類した。「競技」に関しては①. 競技の歴史について②. 競技の説明についての二つに分類してあり該当する方を選択する。「試合結果」に関しては①. 国内試合（大会）②. 国際試合（大会）③. 親善試合の三つに分類してあり該当する方を選択する。「その他」に関しては①. 教育②. 社会③. コラム④. 事件⑤. 普及関係⑥. 大会情報⑦. 個人、チーム情報⑧. 施設や用具⑨. その他と九つに分類した。

上記の手順に則りながらコーディングシートを用いて調査を進めていき、割り出された結果に基づき各社の記事内容の変遷や記事数の推移、各社の傾向、ラクロスの歴史との関係性を把握する。

【結果・考察】

日本にラクロスが伝わってきた当初はやはりマイナースポーツということもあり、競技についての知識や情報が乏しいためラクロスに関する歴史や競技説明（ルールや道具等）が多いのではないかと、その後は徐々にリーグ戦の結果やワールドカップの活躍などの記事内容に変化していくのではないかとという仮説は今回調査した新聞社四社では当てはまった。しかし本当にこのような報道変遷で良いのだろうかという疑問も同時に浮かんだ。確かに基本的な競技の説明や歴史を掲載する必要がなくなるくらいラクロスという競技の認知度が向上してきたことは事実なのだと思う。だが学生ラクロスリーグの結果を見て「ラクロスとは何だ。」と思う人は少なくないと思う。今回は私の考える仮説通りにはなったが競技の説明や歴史といった点の内容は定期的に報道すべきだと思う。そのようにすることで読者の様々な年齢層の方にラクロスという競技を理解してもらえて、以前よりも試合結果に記事にしても目につきやすいものになるのではないかと感じた。

記事数の変化に関しては年々増加傾向になるという仮説であったが、実際に右肩上がり増加していた傾向が見受けられたのは毎日新聞であった。読売新聞も一時的な増加は見受けられたが件数にバラつきがあったため完全に増加したとは言い切ることは出来ない。また、朝日新聞と日本経済新聞に至っては増加と減少を不規則に繰り返していた結果となったため今回の調査で仮説通りの結果になったのは毎日新聞のみであった。

記事数の多い年とラクロス界の歴史の中で大きな出来事があった年との関連性はあるのではないかとという仮説を立てたが実際この仮説通りの結果になったのは朝日新聞のみであった。その一方関連性があったとはいえ、関連性が見受けられた期間は非常に短く継続して相互に影響し合っている訳ではなかった。他の三社では関連性が見受けられることは出来ず仮説通りになったのは朝日新聞のみという結果になった。